

たいとう文化発信マガジン *taitochokan*

01

2018
SUMMER

台東 鳥瞰



特集

キワ文化が生んだ台東の多様性

鳥瞰コラム / from 藝大



たいとう文化発信

キワ文化が生んだ台東の多様性

キワを感じるスポット ① 領玄寺貝塚



谷中にある領玄寺の境内には、縄文中期の貝塚が点在。一般客は墓地内の見学はできないが、入り口付近に貝塚の案内板が立てられている。

キワを感じるスポット ② 摺鉢山古墳



上野公園には、弥生土器や埴輪の破片などが出土した前方後円墳が。5世紀頃に築造され、その形状から「摺鉢山古墳」と呼ばれている。

古代から台東はキワだった

歴史ある社寺から、庶民的で華やかな商業地まで、台東区に多様な文化が溢れているのは、「キワ（際）」としての特徴を持っているためだった。海面が上昇していた縄文期に、上野付近は陸地と海のキワだった場所であり、近代には、江戸の北端のキワとして鬼門を守った。そして現代では、東京を訪れる人々の玄関口・上野駅が東京文化のキワとして機能している。複層的に重なる台東区のキワを俯瞰してみることで、時空を超えた多彩な文化の堆積が読み解ける。

キワを感じるスポット ③ 上野公園の崖



縄文期は岬だった半島のように突き出した上野の台地。その端につくられたのが、上野駅だ。いまでも駅そばの崖が、その面影を残している。

キワを感じるスポット ④ 石浜公園



浅草の地名の由来となった「砂利ばかりで背の高い草が生えない土地」を再現した遊具のある児童公園。沖積層の大地を子供たちが体感できる場に。



キワ【際】

- 1 あと少しで別のものになろうとするぎりぎりのところ。境目。また、物の端。「がけの際から見下ろす」「生え際」「波打ち際」
- 2 ある物にきわめて接近した所。すぐそば。「戸口の際に置く」「壁際」「山際」「窓際」
- 3 物事がそうなるとうするまさにそのとき。「今わの際」「入り際」「死に際」「往生際」
- 4 物事の窮まるところ。限界。際限。

出典：小学館『デジタル大辞泉』

地形で読みとくキワ文化

縄文期から神聖な場所とされていた台地には、その土地の記憶をとどめるかのように今も寺などが多い。一方でかつて海だった平野には、地形の特性を活かしてマス目状に道が整備され、いまも色とりどりの庶民文化が花開いている。

寛永寺

徳川家の菩提寺として有名な寛永寺は、江戸城の鬼門を守るために1625年に建立された。京都御所とその鬼門を守る比叡山延暦寺に見立てたため、本尊も延暦寺と同じく薬師如来が祀られている。江戸時代には、上野台地を覆うように（現在の）上野公園一帯を敷地としていた。



江戸名所上野仁王門之図（国立国会図書館蔵）



江戸時代の寛永寺は、上野公園から広がる一帯を敷地に持つ大寺院でした。寛永寺を開山した天海大僧正は誰でもお参りできる寺を目指し、境内に京都や滋賀の名所旧跡に見立てた諸国漫遊気分を味わえる施設を建てました。現在の不忍池辯天堂は琵琶湖の竹生島宝厳寺、清水観音堂は京都の清水寺に見立てて建てられたものなんです。（寛永寺 宮部亮侑 執事）

上野公園

武蔵野台地の端に位置する上野公園には、かつては数メートルほどの山があったが、寛永寺建立時に整地されて平らになった。いまでもこの界隈を「上野の山」と呼ぶ人も。



アメヤ横丁

かつての寛永寺の門前町に位置。アーケード入り口から、台地である上野公園を見上げると、その高低差がよくわかる。



浅草寺

縄文時代には上野台地以東は海だったが、微高地だった浅草寺周辺では古い遺跡が発見されている。現在は隅田川とのキワで、観光地として賑わいを見せている。



六十余州名所図会 江戸浅草市（国立国会図書館蔵）

浅草寺

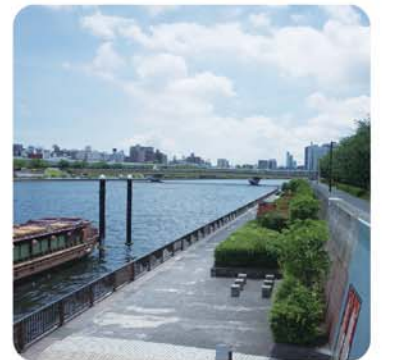
かつぱ橋道具街

水はけが悪かったこの土地を合羽屋喜八が整備しようとし、それを河童が手伝った……という言い伝えが残っている道具街（由来には諸説あり）。こんなエピソードにも、沖積層らしさが感じられる。



隅田川

江戸の物流の玄関口。多くの物品を船で運搬していた江戸時代には、河川は人や文化の行き交いに重要な役割を果たしていた。



谷中銀座

観光客で賑わう夕焼けだんだんの坂道は、上野台地からいまでは暗渠になっている旧谷田川へと続く勾配。区界（くざかい）でもある谷中銀座を、複数のキワを感じながら歩きたい。



上野公園の崖

おかず横丁

おかず横丁周辺は、もともと平野だったため、都市計画に土地の高低が影響せず、街区が碁盤の目のように整備されている。



沖積平野

約2万年前以降（完新世）に形成された地層（沖積層）の平地。水辺の堆積物などによるため、一般的に地盤がやわらかく、湿地帯が多い。縄文時代に海だった上野台地以東は、沖積平野のため高低が少なく、街区が碁盤の目状に広がっている。

洪積台地

約2万年前（更新世）に形成された地層（洪積層）の台地。隆起によるため周囲を急斜面や崖で囲まれている。一般的に火山噴出堆積物や火山岩などから成り、硬く水はけがよい。上野から谷中にかけての上野台地は、東京を東西に延びる武蔵野台地の東端に位置し、貝塚など古代から人間がいた痕跡が出土している。また、後には霊性を帯びた場所として古墳などが多く建てられた。

歴史と地形も楽しめる、現代のキワ・スポット

さあ、街に出かけてみよう。古代から連綿と続く土地の歴史を知ってから見る街は、きっと新たな魅力を教えてくれるはず。自分なりのあらたな視点や再発見を楽しんで。



洪積台地のキワ・スポット



アンモナイトのような赤い螺旋階段

■ 東京文化会館

東京都開都500年記念事業として、「首都東京にオペラやバレエもできる本格的な音楽ホールを」と、建築家・前川國男の設計で建てられたのが東京文化会館。じつはその敷地内には6世紀ごろにつくられた桜雲台古墳があったとされている。周辺環境に溶け込むような建築を目指し、エントランスの天井は星空、床のタイルは落ち葉をイメージ。建物内の螺旋階段が、出土した化石を想起させるのは偶然か。

■ 台東区上野公園5-45 ☎ 03-3828-2111 □ <http://www.t-bunka.jp>

自転車散歩で地形がわかる

■ Tokyobike Rentals Yanaka

谷中にあるレンタルバイクショップ。坂道と信号の多い東京を気持ちよく走るために、パーツの一つひとつで吟味した自転車を提供している。洪積台地から沖積平野を快適に周遊するために活用したい。WEBから好みの自転車を予約することができ、同サイト内ではスタッフがオススメの近隣店舗も紹介されているので、チェックしてみて。

■ 台東区谷中4-2-39 ☎ 10:00~19:30 ☎ 03-5809-0980
□ <https://tokyobikerentals.com>



もっとキワめる！

『アースダイバー』 中沢新一著

縄文地図と照らし合わせながら、当時の風景を想起し文化の蓄積を振り返ることで、現代東京に新たな解釈を提示する。東京歴史探訪のバイブル的な一冊。付属のアースダイビング・マップを片手に、歩きたい。2017年には築地市場と明治神宮を探索した『アースダイバー 東京の聖地』も刊行。講談社 2005年発行 266ページ



隅田川を望むホステルは台東区と海外が接するキワ

■ Nui. HOSTEL & BAR LOUNGE

江戸中期に創業した玩具メーカーが倉庫として使用していたビルをリノベーションし、北の大地をイメージしたカフェ&バーラウンジにホステルの受付機能を併設。地元客が集うおしゃれなラウンジは若年層に人気が高い。空港からのアクセスが良いため、口コミで訪れる海外ツーリストの宿泊客が多く、川に面したかつての物流拠点が、現代では、国内外から集まる人々の、ゆるやかな交流の場になっている。

📍 台東区蔵前2-14-13 ☎ 8:00~18:00(カフェ)、18:00~25:00(L.O.は食事が23:00、ドリンクは24:30)
☎ 03-6240-9854 ☐ <http://backpackersjapan.co.jp/nuihostel>



季節に“キワ”だった品を扱う 戦後からのキワモノ屋

■ 木村由一商店

夏はうちわや扇子、正月には門松、3月には雛人形と、四季を楽しむ品を季節ごとに店頭で並べて商売をしていたのが際物屋。もとは浅草寺の参道として栄え、おもちゃ屋がずらりと並んでいた蔵前で、いまでも際物屋としての商売を続けるのが木村由一商店だ。店内にはけん玉やおはじき、ペーゴマなど、昔ながらの子供のおもちゃも並んでいる。とくに和風が人気で、ポスター代わりのインテリアとして買い求める人が多い。

📍 台東区蔵前2-4-3 ☎ 9:00~17:30頃 ☎ 03-3851-5508
☐ <http://www.tako.shop-site.jp>

開放感あるテラス席で 浅草の歴史に思いを馳せて

■ カフェ ムルソー

浅草寺の門前の賑わいから少し外れた、隅田川沿いに位置するカフェ。外壁に蔦が絡まり、レトロ感が漂うビルの半地下にはパティスリーがあり、ここで手作りのケーキが2・3階のカフェで提供されている。店内からは隅田川を行き交う船やスカイツリーを望め、浅草寺を中心に古くから多様で豊かな文化を育んできた、沖積平野の広がりを感じられる。

📍 台東区雷門2-1-5 中村ビル
☎ 11:00~23:00(土日祝は22:00閉店)
☎ 03-3843-8008 ☐ <http://cafe-meursault.com>





上野周辺には博物館や美術館など文化施設の集まるエリアと、商店街や歓楽街のある庶民的なエリアがあります。対照的な物事が同居するユニークなこの街は、どのように形成されたのでしょうか。

多様な表情を持つ街・上野の謎を解こうとすると、あらゆる「キワ」が見えてきます。その鍵は寛永寺にあり。都市計画に風水を取り入れた江戸では、城から鬼門（北東）の方向に寛永寺を建立し、邪気を封じて繁栄を見守ってきたのです。

もともと寛永寺の敷地は、不忍池から現在の寛永寺がある鶯谷にかけての大変広いものでしたが、明治以降、その大部分が現在の各博物館や美術館、東京藝術大学、上野公園へと変わっていきます。つまり、上野の文化施設と緑地の源は寛永寺だったのです。

上野の賑わいの発端は門前町

また、大きな寺社の周辺には必ず飲食店などが並ぶ門前町があります。江戸時代における「参詣」の重要性は現在より高く、門前町が都市になった例も多々あります。善光寺が発展した長野市、千葉神社の門前に県庁が据えられてさらに発展した千葉市など。

かつての寛永寺の門前町は現在のの上野広小路あたりで、周辺のアメヤ横丁や湯島の賑わいの発端となりました。裏鬼門（南西）に置かれた増上寺の周辺も上野と似て、芝公園、東京タワー、大使館、芝大門から浜松町駅にかけて名残が残る門前町の賑わいと、これまたほかにはないユニークな組み合わせが生まれています。

地形と鉄道のキワが多くの人を集める

さらに上野の個性や混沌に拍車をかけたのは地形でした。上野は洪積台地（本郷台、上野台地）の東端でもあります。洪積台地に立つ寺社や文化施設と、寛永寺の門前町にあたる沖積平野に花開いた庶民文化の猥雑とした魅力のコントラスト。

この台地と平野のキワを通っているのが北に向かう大動脈、東北本線（その他各種新幹線、山手線などを含む）です。明治時代にできた鉄道は地形のキワを通り、

江戸時代からの街の北端に置かれたのが上野駅なのです。鉄道はやがて東京駅方面に延伸し、始発／終着の列車は減りますが、上野駅は長距離列車が発着するターミナル駅だった時代が長く、地形と歴史がもたらしたコントラストの強い街に、絶えず多種多様な人々を集め続けていることで、上野の街の個性は、より強まったのです。



江戸城から正確な北東には飛鳥時代からの歴史を持つ浅草寺があり、鬼門を守るための祈禱を行う寛永寺は、浅草寺から西にあった山を整地して建てられた。

地理人 今和泉隆行

7歳の頃から空想地図（実在しない都市の地図）を描く空想地図作家。大学生時代に47都道府県300都市を回って全国の土地勘をつけ、地図を通じて都市や社会、人々の営みを読み解き、新たな街の見方を説いている。地図会社アドバイザー、ライティング、社員研修、ワークショップを実施。主な著書に『みんなの空想地図』（白水社、2013）。

トトロの森の植物で、大学と地域のやわらかい境界をつくる

東京藝術大学の **GEIDAI Hedge** プロジェクト



上野公園のすぐ隣にある東京藝術大学の黒い鉄塀が一部、取り除かれている。代わりに現れたのは、初夏には新緑が、秋には紅葉と、四季を楽しめる生垣。その様は、地域に親しまれる新しい藝大の姿を予見させてくれるようだ。



武蔵野の植生より、カヤやイヌツゲなど約30種の樹木を選定

「GEIDAI Hedgeプロジェクト」という名を持つこの緑化活動のきっかけは、2014年2月の記録的な積雪により、上野公園一帯で樹木が倒れたり、枝が折れてしまったこと。再生の過程で、藝大キャンパス内の自然の荒廃に改めて気づき、手を入れて次世代につなごうと「藝大保存林プロジェクト」がスタートした。ランドスケープデザイナーの田瀬理夫さんが監修として、日本で古来から育まれてきた武蔵野の植生を選んで植樹している。さらに2016年には、老朽化が進む公道と藝大との境界線にある塀の改修が話題になり、「藝大らしいやわらかな境界線としての刈り込み」を創り出そうと、藝大キャンパスグランドデザイン室が中心となり、学生・教職員・卒業生らに呼びかけてこのGEIDAI Hedgeプロジェクトが立ち上がったのだ。

足りない資金はクラウドファンディングで卒業生や地域から支援され、学生と教職員約70名が全長80メートルほどの区画に1500本、約30種が植樹された。長大な藝大の塀を、今後も次々と生垣に変えようと、2016年のHedge1から3までプロジェクトは回数を重ねている。日常の草とりや水やりでは、学生たちが自主的に立ち上げた「お世話隊」が活躍する。

東京藝術大学教授の清水泰博さんは、「プロジェクトが進めば、この周辺一帯の風景に有機的なつながりが感じられるようになります。生垣越しに、学内にある築約130年の煉瓦造りの建物を眺められるようになる。もっと豊かな都市空間が生まれるんです」と語る。それはまるで、明治期に敷地が分割された、かつての寛永寺の広大な敷地空間が、現代によみがえってくるようでもある。

GEIDAI Hedgeプロジェクトにより、これまでは歩道をせかせかと通り過ぎていた人々が、「これは何の苗木かしら?」と、ふと足を止めるようになった。大学のキワを少しやわらかくすると、街に新しい表情が生まれるのだ。



プロジェクト前:歩道と藝大敷地は鉄塀で仕切られていた



藝大保存林にて、デザイン科清水泰博教授(左)とキャンパスグランドデザイン室君塚和香助教(右)

REVIEW!

台東区で開催された、視野を広げてくれる文化イベントをピックアップ&レビュー。

美しいぼろ布展 ～都築響一が見たBORO～

「ドンジャ」と呼ばれる衣類型の掛け布団、穴を継いだ足袋、女性たちの腰巻など、厳しい雪国の暮らしで使い込まれた布類の数々が一堂に会すと、そのカラフルさとスタイリッシュさに驚かされる。いまや世界のトップファッションデザイナーが熱い視線を注ぐ「BORO」は、麻布を幾重にも重ね、刺し子をほどこして防寒した生活の軌跡だ。厳しい暮らしのなかにも人は美しさを求めるのだろう。名もなき乙女たちの月明かりの下での手仕事は自由と尊厳に満ちていた。「BORO」を身にまとう人の姿を現代によみがえらせ、皮膚と布が溶け合う様を見せる写真家で編集者の都築響一の撮り下ろし作品も、新たな視点を添えている。



モデルが着用したBOROも、かつて実際に着られていたもの



一流メゾンのショーウィンドウと見まごう展示

会期：2018年3月30日～2019年3月31日
会場：アミューズ ミュージアム(台東区浅草2-34-3)

企画展「沖縄の旧石器時代が熱い！」

化石には古代の暮らしの情報(メモリー)が詰まっている。我々の足元に眠る地層には、先祖たちの未だ謎に包まれた営みがあるのだ。本展は、近年貴重な発見が相次ぐ沖縄の旧石器時代にフォーカスを当て、様々な切り口で古代の暮らしを丁寧に紐解いた。貝でつくられた世界最古の釣り針の小ささと精巧さに感じる、旧石器人の手先の器用さとセンスが生々しい。国境という概念のない古代の人々を知ることで、日本人や文化のルーツを求める視野を広げてくれる。古墳が現存する上野公園や、充実した博物展示が魅力の日本館常設展もオススメだ。なお、同館では特別展「昆虫」を7月13日から開催中。



サキタリ洞で2012年に発掘された釣り針



発見された人骨の研究も進む
(白保竿根田原洞穴遺跡)



白保竿根田原洞穴遺跡で発見された人骨から
旧石器人の生前の顔つきを再現

会期：2018年4月20日～6月17日 *会期終了
会場：国立科学博物館 日本館1階 企画展示室

UPCOMING!

今後に控える文化イベントを紹介。多様な催しを鳥瞰し、体感へと踏み出そう。

江戸まち たいとう 芸楽祭 夏の陣

まるでブロードウェイのように江戸期から様々な文化芸能が発展し、百花繚乱の賑やかさだった上野・浅草を舞台に、肩の力を抜いて楽しめる伝統芸能の祭りを開催。夏の陣では、台東区にちなんだ昔話を実演する創作講談ワークショップや、野外映画上映会、浅草老舗の味と若手芸人による幫間芸を堪能できる奥浅草歴史散歩などを予定。

会期：8月4日～10月28日

会場：上野、浅草周辺エリア

※ プログラムにより異なる

☎ 03-5246-1328

☐ www.taitogeirakusai.com



講師は明るく分かりやすい芸風で人気の神田紅師匠

芸工展2018

1993年にスタートして今年26回目を迎える芸術と工芸のイベント。「まちじゅうが展覧会場」をテーマに地域密着型のスタイルで人気を集める。地域の職人や生活の延長にある創作活動に丁寧に光を当て、展示やワークショップ、トークなど、期間中は100を超える企画を展開。目印の赤い手ぬぐいを頼りに街中の会場を巡れば、谷・根・千の新たな魅力に出合える。

会期：10月1日～10月31日

会場：谷中・根津・千駄木・上野桜木・池之端・日暮里界隈

※ プログラムにより異なる

✉ geikoten@gmail.com

☐ www.geikoten.net



手ぬぐいで彩られた、市井の風景

歌舞伎文字「勘亭流」書道の実演・体験

まるで歌舞伎役者の隈取りのような、威勢のいい太いうねりが特徴の書体「勘亭流」。歌舞伎の看板や番付などに使用される「勘亭流」の書き方を教わりながら、実際にその場で書道を楽しむことができる。外国人観光客にも人気で、書いたポストカードは持ち帰り可能。千客万来、満席を願って、紙面いっぱいには隙なく書かれる勘亭流の魅力を体感して。

開催日：毎月第2、第4水曜日

会場：浅草文化観光センター7階（台東区雷門2-18-9）

※ 無料

☎ 03-3842-5566

☐ http://www.city.taito.lg.jp/index/bunka_kanko/oyakudachi/kankocenter/20180420.html



気軽にできる書道体験を毎月定期的に行なう

台東
鳥瞰

NEXT ISSUE

次号予告

藝

(げい/わざ)

職人、芸人、芸術家。表現者を多く抱える台東区では、彼らのつくるものが、集まる環境が、どのように街を形成しているのだろうか。台東の「藝」を鳥瞰し、アーツ&クラフツの生活に溶け出している様を追う。来春発行予定。

たいとうちょうかん

『台東鳥瞰』とは

上野や浅草といった世界に誇る観光地を持ち、区域のすみずみまでユニークな文化を花開かせている台東区。そこに根付く文化は、歴史や地形、動植物や人々の日常をも包み込んだ、環の中で醸成されてきたものです。『台東鳥瞰』では、それらを鳥瞰することで、台東区に広がる様々な表象や営みに新たな視座を提示し、文化の再構築を試みる、文化芸術の広報誌です。

たいとう文化発信プログラム

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、台東区内の文化・芸術に関わる様々な取り組みをPRし、世界に誇れる歴史と文化を持つ区の魅力を国内外へ発信することを目的として策定されたプログラムです。このプログラムを通じて、観光客の方はもちろん、区内に住んでいる方や働いている方にも台東区の魅力を発信していきます。



たいとう文化発信
Culture of Taito City

ロゴマークデザインについて

台東の文字を変形させたマーク。「多様な文化を和える(あえる)」というテーマで、様々な文化が混ざりあって形成された台東区を、異なる3つの形で表現しています。

台東区文化芸術総合サイト
『たいとう文化マルシェ』

『たいとう文化マルシェ』は、「たいとう文化発信プログラム」によるPR展開として、台東区内の魅力あふれる文化イベント・文化施設・展覧会レポートなどを紹介する文化芸術総合サイトです。



www.culture.city.taito.lg.jp